

望湖楼醉書

蘇

軾

黒雲墨を翻未山遮

白雨珠を跳乱船入

地巻風来つて忽ち吹散

望湖楼下水天の如し

【作者】蘇軾(一〇三六〜一一〇一)・北宋の詩人。北宋第一の文化人。政治家。字は子瞻。号は東坡。現・四川省眉山の人。三蘇の一で、(父…)蘇洵の老蘇、(弟…)蘇轍の小蘇に対して、大蘇といわれる。

【語釈】*望湖楼：西湖畔の建物。看経楼とも、先徳楼ともいう。*黒雲：黒い雨雲。*翻：ひっくり返す。反対になる。ひるがえす。*白雨：にわか雨。夕立。*如天：大空のように広く、静かで青い。

【通釈】黒い雲が墨(すみ)をひっくり返したように(広がったが)、まだ山を遮(さえぎ)るまでには到っていない。夕立が真珠をはねるように船に飛び込んできた。地をまきあげる勢いの強い風が急に吹いてきて、(雨を)吹き飛ばして。望湖楼の下の水面は大空のように(広く、静かで青い)。

【備考】六月二十七日望湖楼醉書…六月二十七日に望湖楼で酔いながら詩を書く。夕立に因る天候の急激な変化を詠う。
・六月二十七日…旧暦で夏の終わり。熙寧五年(1072年)六月二十七日。作者は杭州にいた。